

PCC NEWS & LETTER

日本赤十字社医療センター緩和ケアカンファレンス

vol.03 2018.8



2018年7月11日第142回PCC開催

地域の緩和ケア紹介

今回は、渋谷区神宮前にある、おいかわ内科在宅クリニックの及川武史先生、渋谷区東にある、コパン訪問看護ステーションの田中雄大先生に、施設の特徴や日々の介入内容をご紹介します。

及川先生は、呼吸器外科や内視鏡の経験を活かし、人工呼吸器が必要な方も含め幅広い医療を提供くださっています。これらは、地域との連携・協力体制があつてこそ、とお話してくださいました。

田中先生は、自宅に帰ってもいいかな、と思えるよう、安心して過ごせる環境づくりを大事にされており、他者と関わることや、人生の最終段階を考えるきっかけづくりも役割と考えているとお話してくださいました。

井上実穂先生の講演



教育講演
「子どもを持つがん患者
をどう支えるか」
チャイルドケアプロジェクト
の活動を通して」

四国がんセンター臨床心理士
井上実穂先生

がん患者とその子ども達をどう支えていくのか、その考え方と、四国がんセンターでの活動についてお話しいただきました。2015年に18歳未満の子どもがいるがん患者は年間5万6000人という推計が発表されました。医療の現場では、がん患者だけでなく、その子どもと接する機会も増えていきます。がんを患ったことにより助けを必要としている患者が、良い親でいようとするのは難しいことです。一方で、子どもは学校や食事のことなど、自分の生活が変化することに不安を持ち、家族に起きていることは自分も理解したいと思つていきます。



PCU便り

【七夕会】



七夕会を開催しました。中庭が見える病棟ラウンジで、トーンチャイムという楽器を使って皆さんと音楽療法を楽しみました。音楽を通して、これまでの人生と今をつなぐ癒しの時間になりました。



「紹介いただいたキワニス
ドールと冊子」
子どもとの
コミュニケーション
ツールにもなります。

親の気持ちを大切にしながら子どもをサポートするためには、地域や多職種で連携しアプローチしていくことが重要であることが話されました。又、親や子どもが持っている力を引き出すこと、親の代わりとなる子どもの療養者を支えることの重要性についても熱く語ってくださいました。患者と子ども両方を地域と一緒に支えなくてはと感じました。

第143回緩和ケアカンファレンス

2018年9月12日 19:00~20:45開催予定

第143回PCC教育講演は「在宅ホスピスケア医として現場をみつめて」ふじ内科クリニックの内藤いづみ先生にご講演いただきます。

住み慣れた地域で最期まで過ごしたいと願う患者さん、ご家族がどのように過ごされているのか、どのようにケアをしているのかを知る機会になると思います。ふるってご参加ください。

なお、この会は、日本医師会生涯教育カリキュラムと緩和薬物療法認定薬剤師単位の取得対象にもなっています。

編集後記

PCC News Letter第3号をお届けします。昨年度がん対策基本法、及び基本推進計画の見直しがあり、AYA世代、就労支援など様々な課題が出てきています。世代によって、がん患者さんが抱える課題も様々で共に向かい合う私たち医療従事者も学び、対応すべきことが多いと実感しています。今後も皆様と共に地域の方々を支えられるよう、一緒に学んでいきたいと思っております。



緩和ケア病棟の庭